

【公立病院経営強化ガイドライン（総務省）】
地域の医療需要に応じ医療機関が担うべき役割・機能
を見直し、最適化を図ったうえで、病院間の連携を強化



【彦根市立病院の基本理念】
住みなれた地域で健康をささえ
安心とぬくもりのある病院



持続可能な地域医療
提供体制を確保する

6つの戦略を実行

1 役割・機能の最適化と連携の強化

- ①地域医療支援病院としての役割強化→入院診療の強化
- ②紹介・逆紹介の率向上 → 病病連携・病診連携の継続
- ③高度急性期機能の充実 → 脳卒中ケアユニットの開設

2 医師・看護師等の確保と働き方改革

【医師】	【看護師】	【メディカルスタッフ】	【DA(医師事務作業補助者)】
医師確保の働きかけ強化 働きやすい勤務環境の整備 若手医師確保	学校等の訪問先の拡大 経験者対象の説明会開催 SNSの活用 看護学生アルバイト受入れ	スタッフの病棟・各センターへの配置、新たな技術の習得	配置の最適化による医師の診療負担の軽減
働き方改革	人材定着		

タスクシフト・タスクシェアの推進

3 経営形態の見直し

現行の「地方公営企業法」の全部適用を維持する。

4 新興感染症に備えた平時からの対応

行政機関・医療機関と議論し、BCPに基づき必要な準備を行う。

- ①感染拡大時 → 感染症専用病棟を設置、専従の感染管理者を配置
- ②平時 → 他の保険医療機関と連携、マニュアルの整備・見直し、研修の実施(集合研修、e-ラーニング)

5 施設・設備の最適化

- ①電子カルテシステムの更新とサイバーセキュリティ対策
- ②医療DXの取組等
- ③長寿命化計画に基づく施設整備

6 経営の効率化等

- ①外来の縮小による入院診療の強化
→ 外来入院患者数比率(外来患者数÷延べ入院患者数)＝150%台を実現
- ②手術件数の維持
→ 手術件数年間4,000件以上、新規患者の手術実施率向上(50%以上)
- ③化学療法の充実
→ 通院治療センターを拡充、入院化学療法の促進
- ④緊急入院から予定入院へシフトし、医療の質を向上する
- ⑤手術や救急医療等の高度かつ専門的な医療の提供体制を強化
→ 「急性期充実体制加算」の取得
- ⑥施設の有効活用
→ 脳卒中ケアユニット(SCU)開設、MRI装置2台体制等
- ⑦「落穂ひろい」活動の継続
→ 医療の質向上と診療報酬算定率の向上
- ⑧費用の削減
→ 人件費、材料費、経費の適正化を図る

※数値目標は裏面に記載のとおり。

経営指標と収支計画

医療機能・医療の質および連携強化等に係る数値目標

「数値目標」に記載のとおり

収支目標

経常収支比率100%を目標とする。

一般会計繰入金

繰出基準の範囲内を基準とし、一般会計と病院事業会計の収支バランスを鑑みながら、毎年度、市と協議し繰入金額を決定する。

数値目標

経営の効率化に係る数値目標

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
外来入院患者数比率(%)	169.5	167.4	163.0	158.2
紹介率(%)	68.0	68.0	69.0	70.0
逆紹介率(%)	82.0	82.0	83.0	84.0
手術件数(件/年)	4,300	4,300	4,400	4,400
新規入院患者への手術実施率(%)	50.0	50.0	50.0	50.0
化学療法(外来)(件/年)	4,000	4,100	4,200	4,300
化学療法(入院)(件/年)	1,000	1,050	1,100	1,100
緊急入院の割合(%)	53.0	52.5	52.0	51.0

医療機能・医療の質、連携の強化等に係る数値目標

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
病床稼働率(%)	80.9	80.9	82.1	83.3
経常収支比率(%)	95.9	97.2	98.5	100.3
修正医業収支比率(%)	95.4	95.8	97.2	99.1
入院患者数(延べ)(人)	120,450	120,450	122,275	124,440
入院単価(円)	71,000	73,000	74,000	75,000
平均在院日数(日)	11.8	11.8	11.6	11.4
外来患者数(延べ)(人)	204,120	201,690	199,260	196,830
外来単価(円)	21,000	21,000	21,000	21,000
職員給与比率(%)	50.4	49.5	48.6	47.7
材料費比率(%)	27.7	27.4	27.2	26.8

点検・評価

- 各所属において取組項目の実施状況を確認する。
- (仮称)彦根市立病院経営強化プラン評価委員会を設置し、収支状況や数値目標等を点検・評価しホームページ等で広く公表する。